

**次期総合振興計画策定
未来の本庄を創るワークショップ
報告書**

本庄市

目次

1	開催概要	p.1
2	ワークショップ結果まとめ	p.2
3-1	第1回開催プログラム	p.6
3-2	第1回ワークショップ実施状況	p.7
3-3	第2回開催プログラム	p.19
3-4	第2回ワークショップ実施状況	p.20
3-5	第3回開催プログラム	p.34
3-6	第3回ワークショップ実施状況	p.35

1. 開催概要

(1) ワークショップの目的

ワークショップは、「市民参加と協働」を重視した基本計画策定の視点を踏襲し、計画策定段階から市民の“生の声”を取り入れるとともに、各ワークショップを通して、市民、団体、市においてまちづくりの目標を共有し、協働のまちづくりの考えを広げていくことを目的に開催します。

上記を踏まえ、以下の2点を目的としてワークショップを実施する。

- ① 幅広く住民の声を聞き計画に反映する。
- ② 住民と行政の信頼関係を深め協働のまちづくりの礎を固める。

(2) 総合振興計画への反映方法

ワークショップの結果はその内容に合わせて、基本構想や基本計画の各段階に反映する。

目的	範囲	反映方法
① 分野ごとのまちづくり課題について、市民の“生の声”を把握する。	<ul style="list-style-type: none">・第1回ワークショップにおいて基本理念・将来像の方向性を描出する。・第2回ワークショップにおいて、分野ごとの取組の方向性、課題抽出を行う。	<ul style="list-style-type: none">・基本構想における基本理念・将来像の設定（<u>キーワード活用による分析</u>：詳細は「2. ワークショップ結果まとめ」参照）・施策ごとの優先度、施策・重点的な取組の見直しに反映させる。（<u>施策調書など庁内資料として意見集を職員に提示</u>）
②市民の自主的なまちづくりの支援策を検討する。	<ul style="list-style-type: none">・第3回ワークショップにて、市民の役割の提案を行う。	<ul style="list-style-type: none">・基本計画の協働事業における市民や団体の役割に反映させる

(3) ワークショップ参加対象

参加対象（全24名）
公募市民
市民アンケート調査対象者のうちの参加希望者
分野ごとの各団体の代表者

2. ワークショップ結果まとめ

■本庄市の将来の姿に関するキーワードまとめ

ワークショップ参加者の各グループから「将来（10年後）の自分の暮らし」と「将来（10年後）の本庄市の姿」についてのイメージとキーワードを抽出して頂きました。

【Aグループ】

	キーワード	主な意見
自分の暮らし	人口”減”	<ul style="list-style-type: none"> 働く場所がなくなっている。若者は都会へ 保育園の将来。継続しているかどうか？ 子供人数の減 空き家が増えている、どうするか？
	”負”の将来	<ul style="list-style-type: none"> 老後の生活、福祉医療が受けられないのでは 財政赤字の増大が心配、社会保障はどうか？ 電気、水道、インフラのお金が払えない。貧しい人が増える。
本庄市の姿	教育	<ul style="list-style-type: none"> 小学校がなくなって地域がさびしくなる 教育の質の低下 老人世帯ばかりで自治会運営撤退
	貧困	<ul style="list-style-type: none"> 学費が払えずに、学校へ行けない人が増える 本庄市は貧しい人にやさしい市になれるか？
	市政	<ul style="list-style-type: none"> 公園の手入れをせず、荒れている 空き家が増える

【Bグループ】

	キーワード	主な意見
自分の暮らし	環境エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ゼロ CO2 の本庄街 本庄の特有自然資源（光、風、水、バイオマス）
	インフラ・街	<ul style="list-style-type: none"> 子どもと遊ぶ公園が少ない 救急病院が市内にないので不便
	教育・子育て	<ul style="list-style-type: none"> 学生のまちになり子どもがたくさんいる 地域の人との交流が増える
	仕事・家族	<ul style="list-style-type: none"> 働き場所が市内に少ないので市外へ通勤 自分のまわりから子どもの声がきこえない
	住居	<ul style="list-style-type: none"> マンションが多くでき、にぎわいのあるようになっている。 周りの家が減っていく
	生活・いきがい・ゆとり	<ul style="list-style-type: none"> 女性の活躍が多くなってきている 趣味などに時間が取れるようになる
本庄市の姿	環境・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 完全クリーンE CO2 ゼロ
	教育	<ul style="list-style-type: none"> 英才特別教室 シルバー人材が教育に貢献
	インフラ	<ul style="list-style-type: none"> 遊び心のある、たのしい公園の整備 大きな道路が出来て便利になっている
	生活	<ul style="list-style-type: none"> 高齢になった両親・義両親の今後の心配 病院が整備される
	仕事	<ul style="list-style-type: none"> 女性が活躍している 高齢者も生きがいのある生活をしている

【Cグループ】

	キーワード	主な意見
自分の暮らし	くらし	・畑、家の庭の植木の手入れが大変になっている ・地域住民、商店の人と交流する
	福祉	・結婚して子供がいるかな ・介護が始まる
本庄市の姿	町並・景観	・ピンぼけの町のまま、かな ・空き地、空き家の増加
	くらし	・周りに外人が増えている ・自治会に入らない人が増える
	場所	・人が集まる場所が少ない ・住みやすい街、歩き易い道の整備
	子供・高校生	・市内の高校を大切に、通学路の整備 ・市内の高校と大学の活用、若い発想力

【Dグループ】

	キーワード	主な意見
自分の暮らし	くらし	・娘と一緒に趣味で、親子で楽しく暮らしたい ・子育ても終わりつつあるので友達と旅行などに出かける
	健康・介護	・近所の人には10年後ならまだお元気かな？ ・両親の介護が必要
	仕事	・人口減少による経営不振 ・仕事と家事を両立している。
	子育て	・息子が結婚して孫をみてみたい ・子育てが落ち着く
本庄市の姿	防災	・災害に備えて行政の対策を見える化してほしい ・市民救助隊
	行政	・空き家対策で本庄市への流入 ・安心安全な本庄市のPR
	インフラ	・藤岡、深谷、伊勢崎の道路のインフラ ・児玉にバイオマス発電所設置
	くらし	・空き住宅の活用 ・駅北口の活性化により観光の充実
	子育て・教育	・学校の中に保育所、学童を設置する ・公園の充実、水辺が多い、夏に遊べる公園
	高齢者	・高齢者が気軽に集える場所がある ・高齢者の活用、仕事をつくる、ボランティアも可能

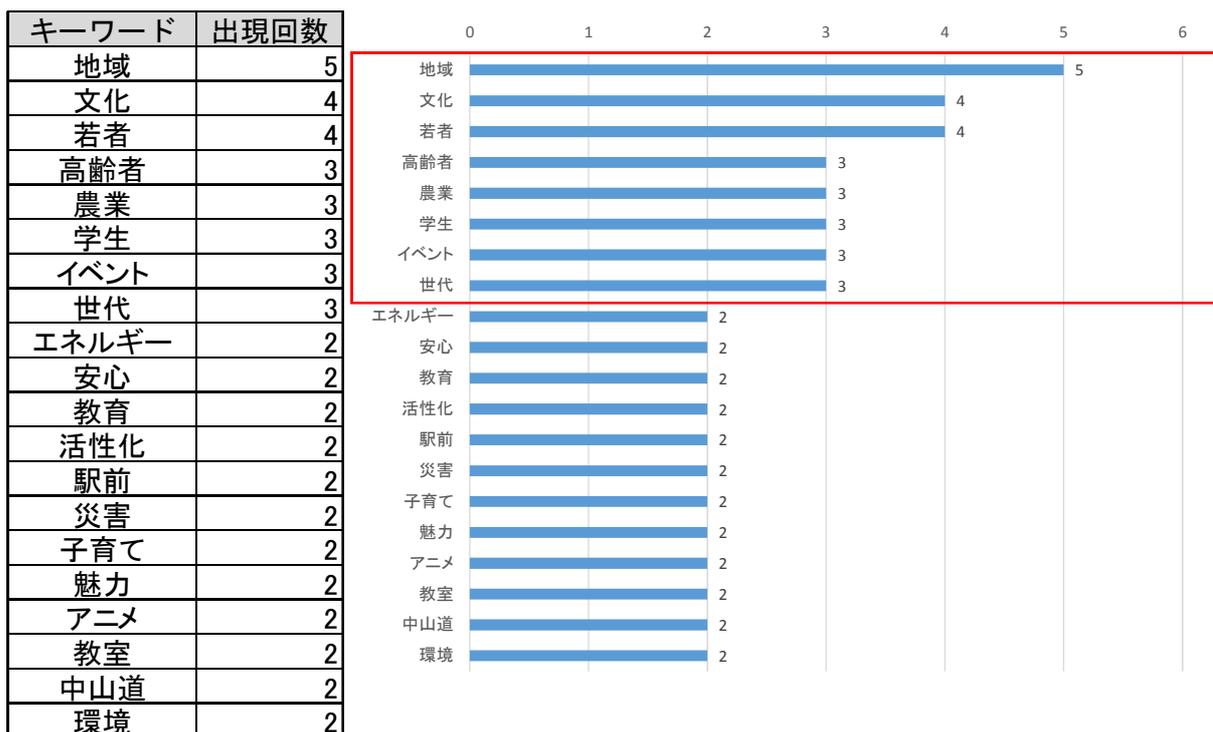
【基本理念・将来像検討のためのキーワードの抽出】

教育、エネルギー、住居、景観、介護、くらし、生活、市政、場所、防災、子育て、貧困、ゆとり、子供、行政、仕事、人口、福祉、高校生、高齢者、インフラ、家族、町並、健康

■本庄市民にとっての「理想のまち」から抽出したキーワード

各グループから本庄市にとっての「理想のまち」のイメージとその「理想のまち」に近づける上での課題について対話して頂きました。埴保己一の生誕の地であることをはじめとする「歴史・文化を誇るまち」、また、大学研究機関などもある「教育のまち」に関連するキーワードなどが得られました。

分野	主な意見	
	理想のまち	課題
健康福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が移動しやすい街づくり ・救急医療の充実したまち 	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉医療が受けられないのでは ・財政赤字の増大、社会保障はどうなるか？
市民生活	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達がたのしそうに賑わっている ・若者が集まって遊べる場所がある町 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会に入らない人が増えている ・老人世帯ばかり
教育文化	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の中に保育所、学童を設置する ・シルバー人材が教育に貢献 	<ul style="list-style-type: none"> ・学費が払えず学校へ行けない人が増える ・教育の質の低下
経済環境	<ul style="list-style-type: none"> ・駅北口の活性化による観光の充実 ・女性の活躍が多くなってきている 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少による経営不振 ・働く場所がなくなっている
都市基盤	<ul style="list-style-type: none"> ・遊び心のある、たのしい公園の整備 ・大きな道路が出来て便利になっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き地、空き家の増加 ・子どもと遊ぶ公園が少ない



【基本理念・将来像検討のためのキーワードの抽出】

地域、学生、子育て、文化、イベント、教育、魅力、若者、世代、活性化、アニメ、高齢者、エネルギー、駅前、教室、農業、安心、災害、環境

■本庄市民にとっての「理想のまち」を実現する協働の方法

各グループから本庄市にとっての「理想のまち」に近づく上での方法について「自分たち（自分・家族・仲間・地域）ができること」と、それを実行する上で「行政に支援してほしいこと」について対話して頂きました。

自分たちでできることのうちには「健康についての活動の場を地域で作る」、「こども食堂の充実」といった具体的な取り組みが提案されました。行政に支援してほしいこととしては、「学校を学童、老人のホールとする」といった学校の利活用に関する意見がグループを越えて分野横断的に出されました。

分野	主な意見	
	自分たちができること	行政に支援してほしいこと
健康福祉	<ul style="list-style-type: none"> 健康についての活動の場を地域で作る スポーツ教室をさらに多くする 	<ul style="list-style-type: none"> 学校を学童、老人のホールとする 小さい公園ではなく大きな公園を作る
市民生活	<ul style="list-style-type: none"> こども食堂の充実 若者向けの街づくりワークショップを行う 	<ul style="list-style-type: none"> 少子化から学校跡地の活用 給食センターの高齢者向けサービス開始
教育文化	<ul style="list-style-type: none"> 見守り隊…放課後のみまもりをする 世界に影響を与えた本を表彰する（本庄賞） 	<ul style="list-style-type: none"> 学校を学童、老人のホールとする 学校の使用用途の拡大（地域の集まり等）
経済環境	<ul style="list-style-type: none"> 本庄に豊富な自然資源の活用 地産地消に貢献する 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史遺産の活用 商個人事業者等への様々な支援
都市基盤	<ul style="list-style-type: none"> ソフト面から高齢者にやさしい街 公園で交流 	<ul style="list-style-type: none"> バスの本数を増やす 若者がリターンしてくる街づくり
行財政経営	<ul style="list-style-type: none"> この地域のことをよく学ぶ知る 学校の清掃に地域住民が参加する 	<ul style="list-style-type: none"> 課を横断して動ける職員を増やす 情報公開、内容を分かり易くしてほしい

3. ワークショップ実施状況

1. 第1回開催プログラム

- 日時： 平成28年10月23日（日）
午前10時00分～午前12時00分
- 場所： はにぼんプラザ
- テーマ： 将来の本庄市を想像しよう!!
- プログラム内容：
 1. 開会・趣旨説明（10：00～）
 - ・市からワークショップの主旨・目的と総合振興計画の概要を説明します。
 - ・本庄市の現況を説明します。
 - ・ワークショップの全体の流れを説明します。
 - ・ワークショップのルール（約束ごと）を説明します。
 2. 自己紹介
 3. ワークショップ（10：25～）
 - ① 将来の自分の暮らし
 - － 将来の自分の暮らしのイメージをポストイットに記入します。
 - ② 将来の本庄市の姿
 - － 将来の本庄市の姿のイメージをポストイットに記入します。
 - ③ 意見のグループ化
 - － 内容を分類してキーワードを抽出します。
 4. 発表（11：40～）
 - ・将来の本庄市について、各テーブルの代表者が発表します。
 5. 閉会
- 参加人数： 20人

2. 第1回ワークショップ実施状況

開会



ワークショップの説明



参加者のみなさま



ワーク① 将来の自分の暮らし





ワーク② 将来の本庄市の姿



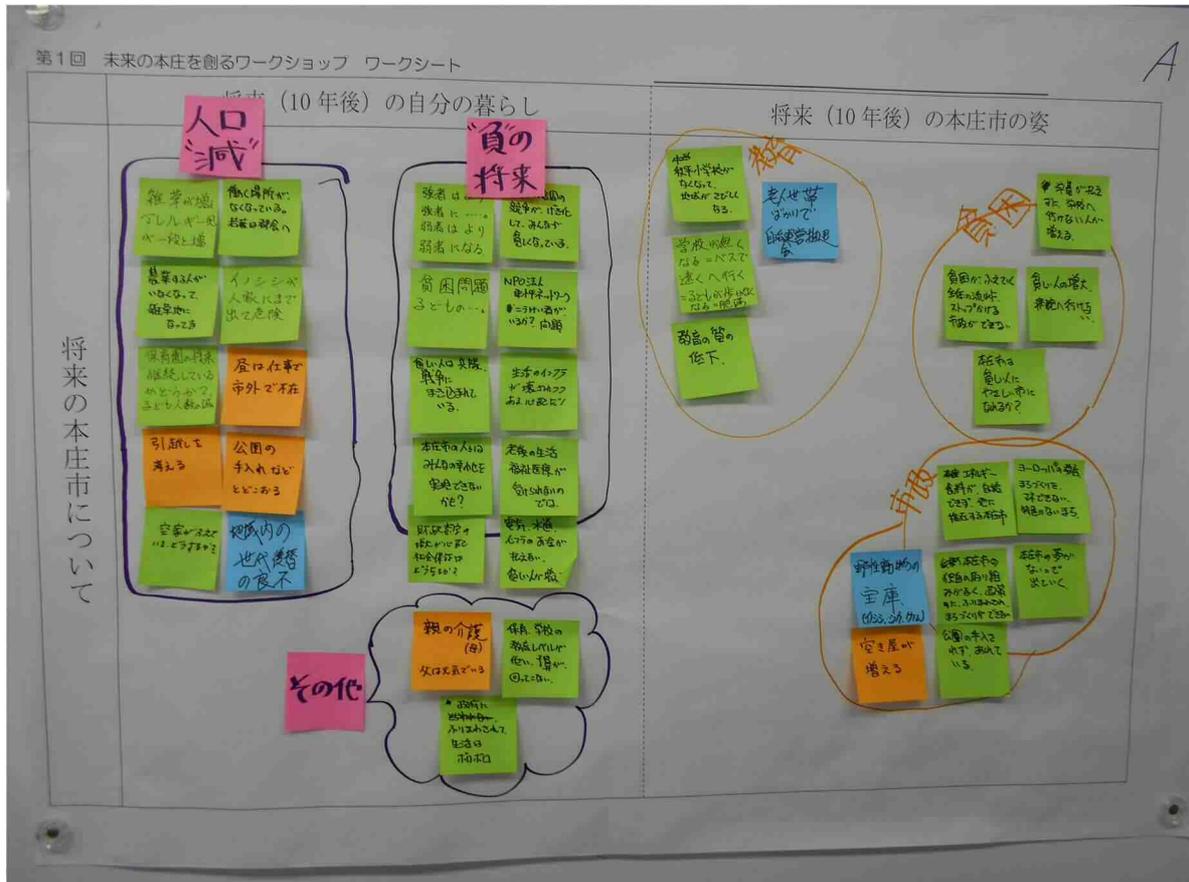
■ワーク①将来の自分の暮らし では、参加者が将来（10年後）の自分の暮らしのイメージを、ワーク②将来の本庄市の姿 では、参加者が将来（10年後）の本庄市の姿のイメージを話題にして会話を繰り広げ、積極的な意見交換がなされた。その内容をポストイットに分類し、キーワードを抽出した。

発表の様子



■発表では、各テーブルで話し合われた内容をまとめ、キーワード化し、代表者が発表する形式をとった。各テーブルでの意見とキーワードは「第1回ワークショップでの対話内容」に記載。

～第1回ワークショップでの対話内容～



■ Aグループにおける意見まとめ

将来（10年後）の自分の暮らし

<キーワード：人口”減”>

- ・ 雑草が増えアレルギー児が一段と増加
- ・ 働く場所がなくなっている。若者は都会へ
- ・ 農業する人がいなくなって雑草地になっている
- ・ イノシシが人家にまで出て危険
- ・ 保育園の将来。継続しているかどうか？ 子供人数の減
- ・ 昼は市外の仕事で不在
- ・ 引越しを考える
- ・ 公園の手入れなど滞る
- ・ 空き家が増えている、どうするか？
- ・ 地域内の世代交替が進むか、進まないか

<キーワード：“負”の将来>

- ・強者はより強者に、弱者はより弱者になる
- ・コンビニ・お店間の競争が激化して、みんなが貧しくなっている
- ・貧困問題 子どもの……。
- ・NPO 法人東小平ネットワーク後継者がいるか？ 問題
- ・貧しい人は兵隊、戦争に巻き込まれている
- ・生活のインフラが壊されつつある。心配だ！
- ・本庄市の人々はみんなの幸せを実現できないかも？
- ・老後の生活、福祉医療が受けられないのでは
- ・財政赤字の増大が心配、社会保障はどうなるか？
- ・電気、水道、インフラのお金が払えない。貧しい人が増える。

<その他>

- ・親の介護（母）、父は元気である
- ・保育・学校の教育レベルが低い、予算が回ってこない
- ・政府にふりまわされて生活はボロボロ

将来（10年後）の本庄市の姿

<キーワード：教育>

- ・小学校がなくなって地域がさびしくなる
- ・学校がなくなる＝バスで遠くへ行く＝子どもが歩かなくなる＝肥満
- ・教育の質の低下
- ・老人世帯ばかりで自治会運営撤退

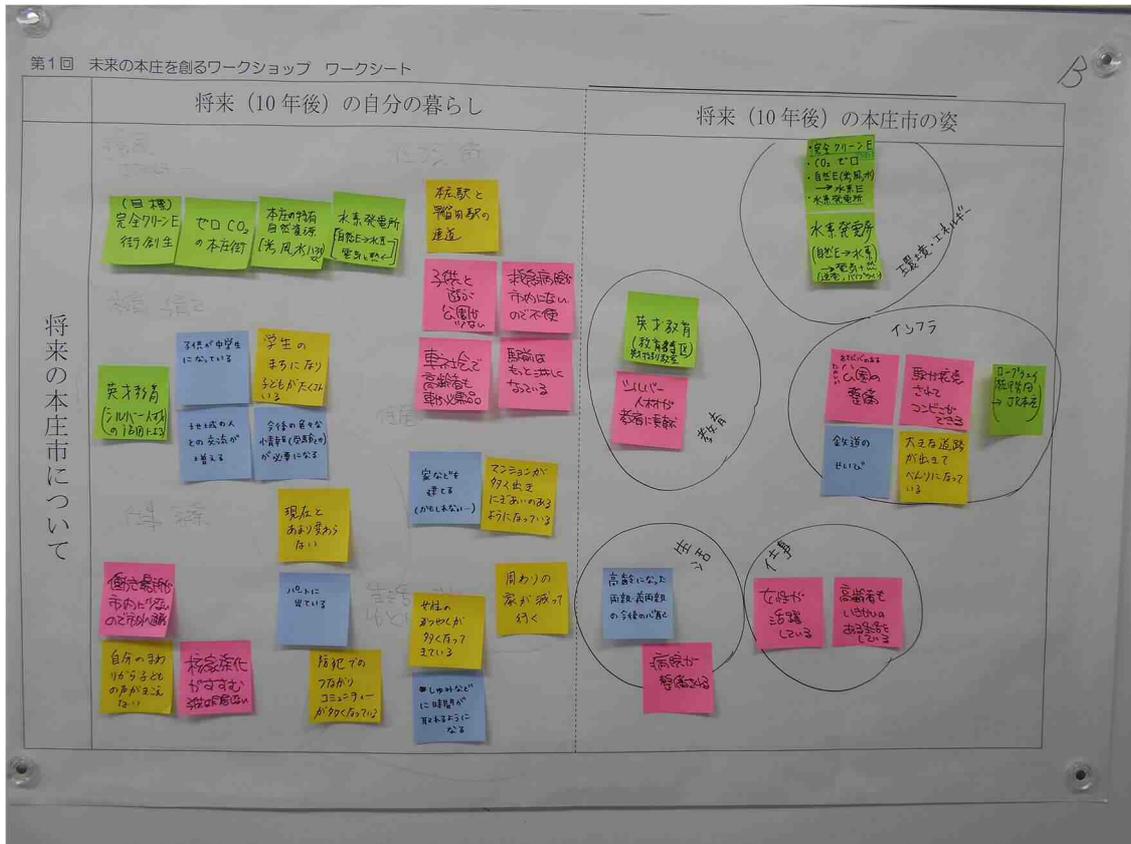
<キーワード：貧困>

- ・学費が払えずに、学校へ行けない人が増える
- ・貧困がふえていく全体の流れにストップをかける市政ができない
- ・貧しい人の増大。病院に行けない
- ・本庄市は貧しい人にやさしい市になれるか？

<キーワード：市政>

- ・エネルギー、食料が自給できず、他に依存する本庄市
- ・ヨーロッパの教育、まちづくりをマネできない特色のないまち
- ・本庄市の独自の取り組みがなく、政策にふりまわされまちづくりができない
- ・本庄市の夢がないので出ていく
- ・公園の手入れをせず、荒れている
- ・空き家が増える
- ・野生動物の宝庫（イノシシ・シカ・サル）

■Bグループにおける意見まとめ



将来（10年後）の自分の暮らし

<キーワード：環境エネルギー>

- ・（目標）完全クリーン E 街創生
- ・ゼロ CO2 の本庄街
- ・本庄の特有自然資源（光、風、水、バイオマス）

<キーワード：環境エネルギー・インフラ・街に共通>

- ・水素発電所（自然 E→水素→電気と熱）

<キーワード：インフラ・街>

- ・本庄駅と早稲田駅の連絡道
- ・子どもと遊ぶ公園が少ない
- ・救急病院が市内にないので不便
- ・車社会で高齢者も車が必需品
- ・駅前はずっと淋しくなっている

<キーワード：教育・子育て>

- ・英才教育（シルバー人材の活用による）

- ・子供が中学生になっている
- ・学生のまちになり子どもがたくさんいる
- ・地域の人との交流が増える
- ・今後のいろいろな情報（受験とか）が必要になる

<キーワード：仕事・家族>

- ・働き場所が市内に少ないので市外へ通勤
- ・自分のまわりから子どもの声がきこえない
- ・核家族化がすすむ。子供は同居しない
- ・パートに出ている

<キーワード：住居>

- ・家などを建てる（かもしれない……）
- ・マンションが多くでき、にぎわいのあるようになっている
- ・周りの家が減っていく

<キーワード：生活・いきがい・ゆとり>

- ・女性の活躍が多くなってきている
- ・趣味などに時間が取れるようになる

<キーワード：仕事・家族・生活・いきがい・ゆとりに共通>

- ・防犯でのつながりコミュニティーが多くなっている

<各キーワードに共通>

- ・現在とあまり変わらない

将来（10年後）の本庄市の姿

<キーワード：環境・エネルギー>

- ・完全クリーン E
- ・CO2 ゼロ
- ・自然 E（光、風、水）→水素 E
- ・水素発電所
- ・水素発電所（自然 E→水素）→電気+熱（送電・パイプライン）

<キーワード：教育>

- ・英才教育（教育特区）
- ・英才特別教室
- ・シルバー人材が教育に貢献

<キーワード：インフラ>

- ・遊び心のある、たのしい公園の整備
- ・駅が拡張されてコンビニができる
- ・ロープウェイ（本庄早稲田→JR 本庄）
- ・鉄道の整備
- ・大きな道路が出来て便利になっている

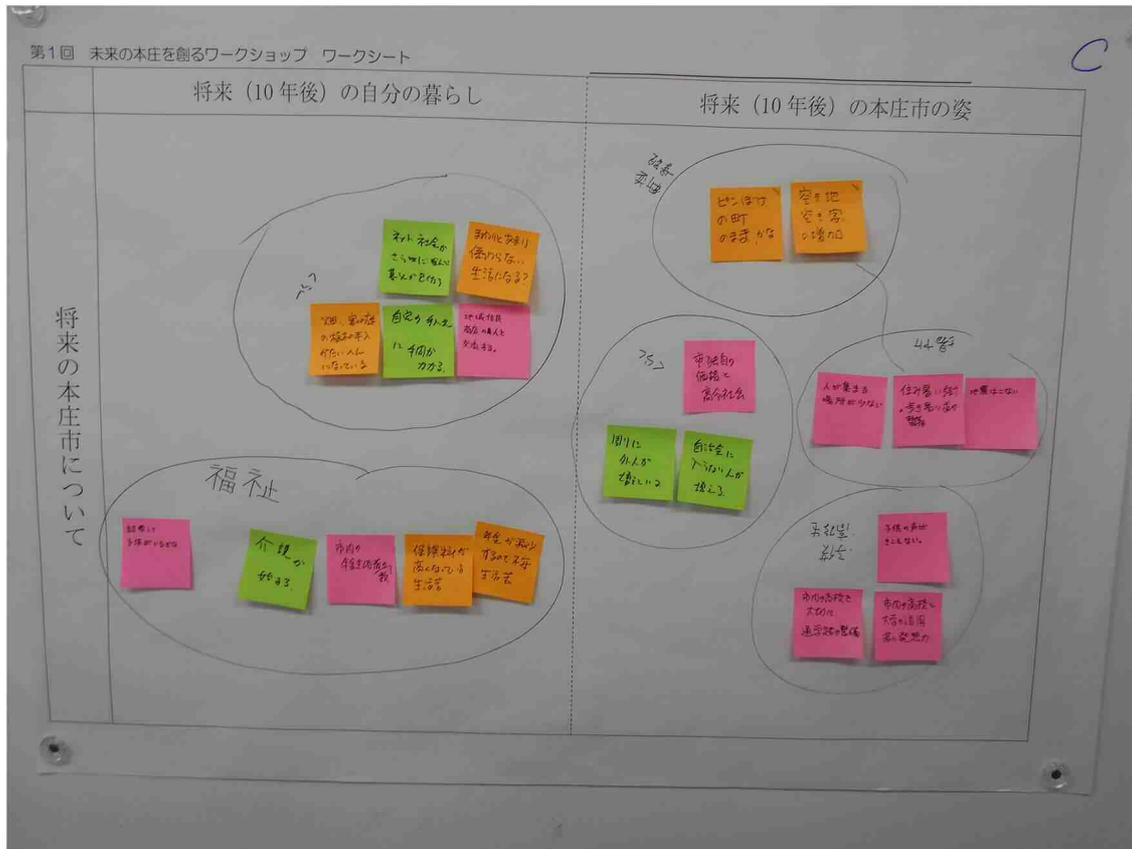
<キーワード：生活>

- ・高齢になった両親・義両親の今後の心配
- ・病院が整備される

<キーワード：仕事>

- ・女性が活躍している
- ・高齢者も生きがいのある生活をしている

■Cグループにおける意見まとめ



将来（10年後）の自分の暮らし

<キーワード：暮らし>

- ・ネット社会がさらに進んで暮らしが良くなる
- ・まわりとあまり係わらない生活になる？
- ・畑、家の庭の植木の手入れが大変になっている
- ・自宅の手入れに手間がかかる
- ・地域住民、商店の人と交流する

<キーワード：福祉>

- ・結婚して子供がいるかな？
- ・介護が始まる
- ・市内の年金生活者の数
- ・保険料が高くなっている、生活苦
- ・年金が減少するので不安、生活苦

将来（10年後）の本庄市の姿

<キーワード：町並み・景観>

- ・ピンぼけの町のまま、かな？

- ・空き地、空き家の増加

<キーワード：くらし>

- ・市独自の価格と高齢社会
- ・周りに外人が増えている
- ・自治会に入らない人が増える

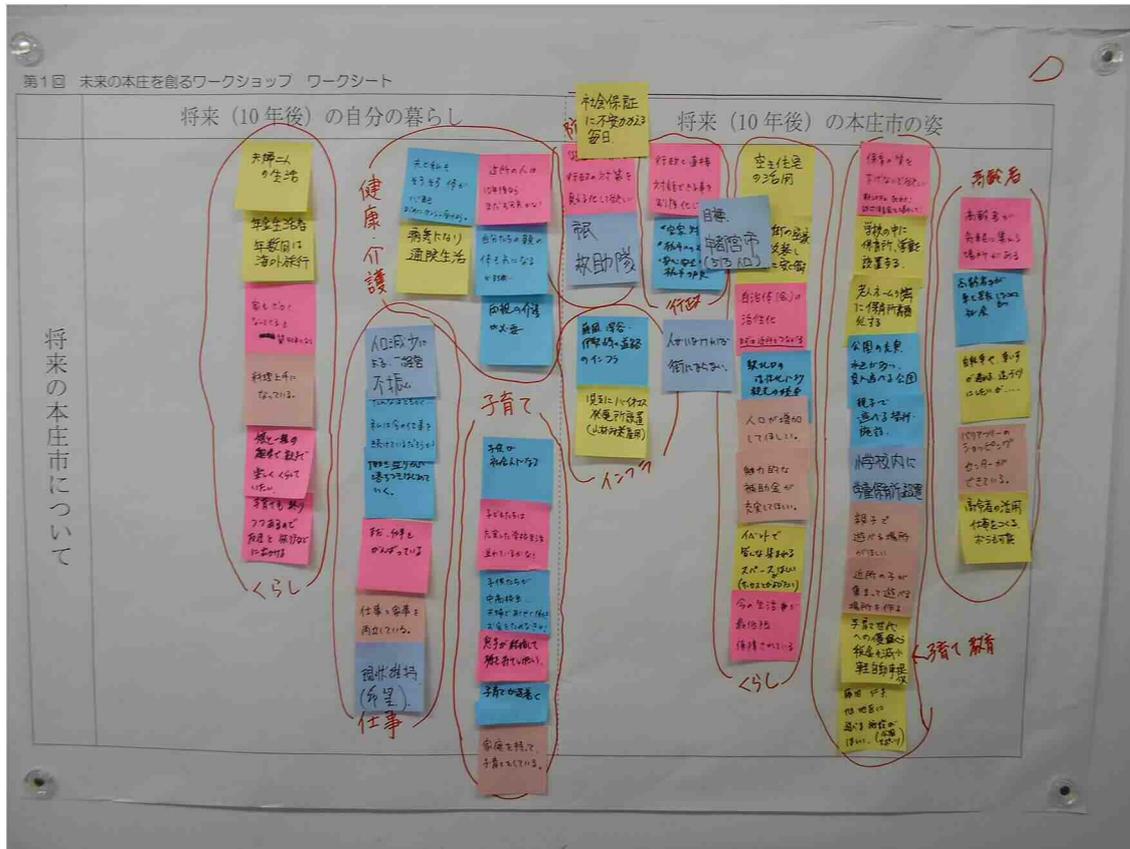
<キーワード：場所>

- ・人が集まる場所が少ない
- ・住みやすい街、歩き易い道の整備
- ・地震は来ない

<キーワード：子供・高校生>

- ・子どもの声がきこえない。
- ・市内の高校を大切に、通学路の整備
- ・市内の高校と大学の活用、若い発想力

■Dグループにおける意見まとめ



将来（10年後）の自分の暮らし

<キーワード：暮らし>

- ・夫婦二人の生活
- ・年金生活者、年数回は海外旅行
- ・家もボロくなっている。築40年になる
- ・料理上手になっている
- ・娘と一緒に趣味で、親子で楽しく暮らしていきたい
- ・子育ても終わりつつあるので友達と旅行などに出かける

<キーワード：健康・介護>

- ・夫と私もそろそろ体が心配、まじめに検診受けよう
- ・近所の人は10年後ならまだお元気かな？
- ・病気になり通院生活
- ・自分たちの親の体も気になる、父85歳……
- ・両親の介護が必要

<キーワード：仕事>

- ・人口減少による経営不振

- ・だんなはともかく…私は今の仕事を続けているだろうか？
- ・働き盛りから落ち着きはじめていく
- ・まだ仕事をがんばっている
- ・仕事と家事を両立している
- ・現状維持（希望）

<キーワード：子育て>

- ・子供が社会人になる
- ・子どもたちは充実した学校生活送れているかな？
- ・子供たちが中高校生…夫婦であくせく働きお金をためなきゃ！
- ・息子が結婚して孫をみてみたい
- ・子育てが落ち着く
- ・家庭を持って子育てをしている

将来（10年後）の本庄市の姿

<キーワード：防災>

- ・災害に備えて行政の対策が見える化してほしい
- ・市民救助隊

<キーワード：行政>

- ・行政と直接対話できることを制度化してほしい
- ・空家対策で本庄市への流入
- ・安心安全な本庄市の PR
- ・目標、宇都宮市（51 万人口）

<キーワード：インフラ>

- ・藤岡、深谷、伊勢崎の道路のインフラ
- ・児玉にバイオマス発電所設置(山林対策雇用)

<キーワード：行政・インフラ・暮らしに共通>

- ・人がいなければ街にならない

<キーワード：暮らし>

- ・空き住宅の活用
- ・商店街の空家、市で改装し若者に安く貸す
- ・自治体（会）の活性化、まずは近所とつながる
- ・駅北口の活性化により観光の充実
- ・人口が増加してほしい

- ・魅力的な補助金が充実してほしい。
- ・イベントでみんな集まれるスペースがほしい（サーカスとかよびたい）
- ・今の生活が最低限保障されている

<キーワード：子育て・教育>

- ・保育の質を下げないで欲しい、新システム反対！ 認可保育園を増やして！
- ・学校の中に保育所、学童を設置する
- ・老人ホームの隣に保育所義務化する
- ・公園の充実、水辺が多い、夏に遊べる公園
- ・親子で遊べる場所・施設
- ・小学校内に学童保育所の設置
- ・親子で遊べる場所が欲しい
- ・近所の子が集まって遊べる場所を作る
- ・子育て世代への優遇、税金の減少、軽自動車提供
- ・藤田、仁手、旭地区に遊べる施設がほしい（公園・スポーツ）

<キーワード：高齢者>

- ・高齢者が気軽に集える場所がある
- ・高齢者が車を運転しなくても良い社会
- ・自転車や車いすが通れる道づくりにしたいが……
- ・バリアフリーのショッピングセンターができている
- ・高齢者の活用、仕事をつくる、ボランティアも可能

<キーワードを横断>

- ・社会保障に不安抱える毎日

※書き起しは原文を基本とし、漢字の訂正等を行った
(以上)

3. 第2回開催プログラム

- 日時： 平成28年11月13日（日）
午前10時00分～午前12時00分

- 場所： はにぼんプラザ

- テーマ：本庄市の「理想のまち」を共有しよう!!

- プログラム内容：

6. 開会・趣旨説明（10：00～）

- ・市からワークショップの主旨・目的と総合振興計画の概要を説明します。
- ・前回のワークショップの振り返り、本日の内容を説明します。
- ・ワークショップの全体の流れを説明します。
- ・ワークショップのルール（約束ごと）を説明します。

7. 自己紹介

8. ワークショップ（10：25～）

① 「理想のまち」のイメージ

- － 「理想のまち」のあり方についてポストイットに記入します。

② 「理想のまち」に近づく上での課題

- － 「理想のまち」に近づく上での課題についてポストイットに記入します。

③ 意見のグループ化

- － 内容を分類してキーワードを抽出します。

9. 発表（11：40～）

- ・「理想のまち」について、各テーブルの代表者が発表します。

10. 閉会

- 参加人数：24人

4. 第2回ワークショップ実施状況

ワークショップの説明



参加者の皆様



■ワーク①「理想のまち」のイメージ では「理想のまち」のあり方について、ワーク②「理想のまち」に近づく上での課題 では、参加者が「理想のまち」に近づく上での課題を話題にして会話を繰り広げ、積極的な意見交換がなされた。その内容をポストイットに分類し、キーワードを抽出した。

ワーク②「理想のまち」に近づける上での課題



発表の様子



■発表では、各テーブルで話し合われた内容をまとめ、キーワード化し、代表者が発表する形式をとった。各テーブルでの意見とキーワードは「第2回ワークショップでの対話内容」に記載。

～第2回ワークショップでの対話内容～

■ Aグループにおける意見まとめ



10年後の「理想のまち」の姿

①健康福祉

- ・小さい町市ならではの福祉の充実、高齢者が自動車の運転をやめた後のサポート
- ・人が死ぬまで健康に過ごす町
- ・自動車から自転車のまちへ

②市民生活

- ・人の集合が出来る
- ・本庄独立国
- ・アニメの町とか学会の開催、スポーツイベントの開催

③教育文化

- ・高校生が出来ること（高校数が多いので）
- ・中高一貫学校

- ・学校の土曜日開校、平日の余裕がでる
- ・教育からの部活の考え方
- ・塙保己一をもっと盛り上げる
- ・今あるものを活かす
- ・地域ごとに役割をもったイベント
- ・農村部、農体験する
- ・ITを使った、市の行政部門を地域に分割させる
- ・市の特性（アニメ）

④経済環境

- ・規模の適正化
- ・農地の活用できている
- ・農業が大規模に行っている
- ・コンパクトシティといわれることのあり方
- ・自然が多い地域にキャンプ場や体験農業

⑤都市基盤 ⑥行財政経営

- ・土地基盤の使用（dataの保管）
- ・箱物の作り方から人間（ソフト面から）からの発想

「理想のまち」に近づける上での課題

①健康福祉

- ・電動車、高齢者が安全に乗れる車
- ・ITの活用
- ・自転車が安心して走れる街
- ・自転車レーンを作る

②市民生活

- ・まずは“無料”での体験！！
- ・民泊が出来るように
- ・お金の集め方、お金の使い方
- ・イベント開催、施設の貸出しバックアップ
- ・観光の人を呼べる施設の整備（駐車場・宿泊）
- ・公共施設の利用をカンタンにする。EX. 寺院

③教育文化

- ・数値目標をもつ、農地活用度・食料自給率・イベント率・エネルギー率
- ・部活からクラブチームへ

- ・ 学校舎の利用の仕方
- ・ NPO・市民が参加するまち作り、ミーティングの定期開催
- ・ 学校を廃校にしないで、学童、老人ホーム、診療所
- ・ 教員を増やす
- ・ イベントを企画できる人材育成
- ・ 農業の法人化
- ・ 統一テストで上位に

④経済環境

- ・ 児玉町等の山村のエネルギー自給、木材チップ発電
- ・ 農業の法人化、農産物は100%自給
- ・ エネルギーを自給できるまち、コンパクトに自給する

⑤都市基盤 ⑥行財政経営

- ・ データ保管トランクルーム（重要なものをいれておく）
- ・ 地盤をピーアールする
- ・ IT企業、芸術家に居住してもらう。

■Bグループにおける意見まとめ



10年後の「理想のまち」の姿

分野を横断

- ・ずっと本庄市に住みたいと思える街

①健康福祉

- ・県北一番の病院が出来ている
- ・24時間365日対応小児科
- ・休日夜間救急を毎日やってほしい
- ・高齢者が移動しやすい街づくり（コンパクト化、交通機関）
- ・福祉・健康、口笛セラピーの可能性

②市民生活

- ・本庄まつりへの高校生の参加
- ・子ども達がたのしそうに賑わっている
- ・昔帰り、向こう三軒両隣で道普請や川底掃除 協同作業や心の交流
- ・ハードよりソフト面を中心に考える

- ・近所の仲がよいまち
- ・戦後の助け合いの気持ちを持った社会・地域づくり
- ・若者の増加
- ・婚活できるまち（市の安心感の担保）

③教育文化

- ・[英才教育]中学校卒業時に高卒程度の学力や高校で大学の専門教育
- ・[教育・文化]新しい音楽（口笛音楽）と口笛セラピーの可能性
- ・学生や社会人が勉強し易い環境
- ・学生の街になっている、特区
- ・余っている小、中学校の教室を活用、高齢者～幼児まで三世代の集う教室づくり

④経済環境

- ・[経済・環境分野]ローカル・・・エネルギーの自産自消
グローバル・・・地球環境に優しい
- ・災害時に強い街、無停電
- ・[本庄の自然資源活用]究極のエコエネルギー水素発電所
- ・観光資源を整備して観光客の増加

⑤都市基盤

- ・交通機関の優位性（新幹線・高速）を活かした人口の増加
- ・北口の再開発がありビルがいっぱい出来ている
- ・バスがほしい
- ・駅前の活性化（商店街・飲食店）
- ・大型ショッピングセンターが立つような街（活気的な）
- ・駅ビルが出来、にぎやかな町になっている
- ・有名な大きなイベントのある街（仙台の七夕とか平塚の七夕のような）
- ・ボーネルンドのキドキドのような児童館（室内大型遊具）

⑥行財政経営

- ・この街に来てみたいと思わせる状況になっている
- ・産業の誘致→税収の増加
- ・カジノの建設

「理想のまち」に近づける上での課題

①健康福祉

- ・病院・医者の方が良いと思える生活を保証
- ・市民ネットワーク充実による 市民の乗合車（秩父市を参考に）

- ・①口笛人口の増加、口笛の啓蒙活動②口笛演奏技術習得③口笛のマイナーイメージの払拭

②市民生活

- ・若年層、子育て世代への税の優遇
- ・市民ネットワークの更なる充実
- ・子育てや若者が働ける場所

③教育文化

- ・差別化のクリア
- ・小中一貫教育
- ・シニアの活用
- ・文教都市としての発展、教育都市を目ざす

④経済環境

- ・エネルギー自産のモチベーション向上（高揚）が必要
- ・[水素エネルギー関連]水素パイプラインインフラ整備
- ・高額資本、県・国の補助金が必要
- ・PRをもっとしていく
- ・エコエネルギーを使って自産・自消、経済を盛り上げる

⑤都市基盤

- ・人口・消費不足→UP
- ・魅力的な本庄市、集客力UP（大）
- ・駅前がにぎやかになってほしい
- ・本庄・伊勢崎・藤岡が1つになるライフラインが出来ている
- ・県外合併している（高崎市）、道州制

⑥行財政経営

- ・産業誘致、遊休地
- ・カジノ建設費、コスト
- ・遊楽街の確立

■Cグループにおける意見まとめ



10年後の「理想のまち」の姿

①健康福祉

- ・老若男女+国際的なまち
- ・市外からの訪問者が多い
- ・まちに若者がたくさんいる
- ・80歳まで元気に働ける

②市民生活 ③教育文化

- ・安全安心
- ・救急病院のあるまち
- ・安心して子育てが出来る
- ・都内へのアクセスを向上させる
- ・文化的な魅力のあるまち
- ・中山道を活かしたまち
- ・来住者が多いまち

④経済環境

- ・農業のまち

「理想のまち」に近づける上での課題

①健康福祉

- ・行き止まり道路の解消（U字道路）
- ・通学路の整備
- ・高齢者の集まり場所
- ・地域医療の確立
- ・養育、教育制度を充実させる
- ・高齢者が働ける環境を提供する
- ・私有地の提供
- ・費用をかけなくとも道路（通行）を整備する
- ・平行する道路に連絡する道路を造る
- ・歩きやすい道路の整備
- ・車を止める場所多くする
- ・私的図書館（空家）利用
- ・外灯で夜道を明るく
- ・道路を広げる

②市民生活 ③教育文化

- ・空き家の活用→学生の活用場所
- ・空き家を減らす
- ・職場と住まいを近くに
- ・本庄市の将来は駅南のビルにかかっていると思います
- ・災害の少ない住みやすい本庄市をPRに人口をふやす
- ・在来線の本庄発の増加
- ・本庄早稲田駅の停車本数を増やす

④経済環境

- ・武州和牛と野菜をPR
- ・観光名所をわかりやすく
- ・情報発信、まつり・イベント・企業見学
- ・東京にアンテナショップを出す
- ・花の名所をつくる
- ・農家の若手育成
- ・NHKの大河ドラマに推薦できる塙保己一やカイコ（まゆ）
- ・小平の地域、さざえ堂、金鑽神社、高窓の館、あじさい街道、岩谷堂のPR

- ・JA 直売所を17号に
- ・ダムカレーを作る
- ・本庄「道の駅」で農業活性化
- ・高窓の里の保全と新しい活性化計画

■D グループにおける意見まとめ



10年後の「理想のまち」の姿

①健康福祉

- ・じいちゃんばーちゃんと子供がふれあえる町
- ・救急医療の充実したまち
- ・予防医療を日本一にする街

②市民生活

- ・若者が集まって遊べる場所がある町
- ・災害対応市民
- ・町中に来たくなる商店がある
- ・地域コミュニティーのあふれる町
- ・住民が地域の魅力を誇れる
- ・事故の少ないまち
- ・有名なまち、知名度のあるまち
- ・中山道一の宿場町の文化・観光を学べる町

③教育文化

- ・学生が起業できる町
- ・子供の笑顔があふれる町
- ・子育て世代が集まって来る町
- ・世代をこえた文化がある町

④経済環境

- ・若者が集まり活性化できる町
- ・町の中にヤングタウンが欲しい
- ・変化に柔軟な町
- ・特徴のあるまち
- ・観光イベントで人が呼べる町
- ・駅前の施設、商店が充実し、他地域から人が来るまち

⑤都市基盤

- ・市民の声に反応の早い町
- ・見せ方が上手な町、他が注目する町
- ・交通渋滞の少ないまち
- ・自分のこととしてみんなが動ける町

「理想のまち」に近づける上での課題

①健康福祉

- ・放課後に寄れる場所をつくる。
- ・口腔ケアによる医療費の削減
- ・町のプロフェッショナルコーディネータをつくる
- ・安心して人生の終えんを迎えられる健康な街
- ・誤嚥性肺炎の予防、口腔ケアの充実
- ・知らずに健康になるプログラムの開発

②市民生活

- ・放課後の教室の活用（幅広い年齢層での交流）
- ・空き家対策で子育て支援
- ・子供が伸び伸びと遊び学べる町
- ・婚活事業他イベントが少ない
- ・すぐやる課、市民の要望を叶える
- ・自治会や育成会に対して無関心
- ・高齢者学校、学校につくる、伝承のもと
- ・若者が出会えるイベントが定期的に行われる町

- ・他校との交流が出来る機会をつくる（本庄にちなんだ）

③教育文化

- ・中山道の活性化
- ・学校の中に保育園・学童の環境を！
- ・商店の空き家3軒単位で借り上げて起業家募集
- ・校内に学童保育の場を設置

④経済環境

- ・バリアフリーショッピングセンターを建てる
- ・若者の起業支援システム
- ・イベント提案を受け入れる町

⑤都市基盤

- ・広報活動が弱い、発信力が弱い
- ・道路のインフラの充実
- ・障害物で健康（段差、階段）
- ・高校ミックスイベント

※書き起しは原文を基本とし、漢字の訂正等を行った

5. 第3回開催プログラム

- 日時： 平成28年11月27日（日）
午前10時00分～午前12時00分
- 場所： はにぼんプラザ
- テーマ：理想の本庄市を実現する方法を提案しよう!!
- プログラム内容：
 1. 開会・趣旨説明（10：00～）
 - ・市からワークショップの主旨・目的と総合振興計画の概要を説明します。
 - ・本庄市の現況を説明します。
 - ・ワークショップの全体の流れを説明します。
 - ・ワークショップのルール（約束ごと）を説明します。
 2. 自己紹介
 3. ふりかえり
 - ・前回のワークで出された、本庄市における「理想のまち」の在り方を実現し、「理想のまち」に近づける課題を解決するために、「理想の本庄市を実現する方法を提案しよう」をテーマに対話をします。そのため、前回の振り返りを各テーブルで行います。
 4. ワークショップ（10：25～）
 - ① 「理想のまち」に近づけるために「自分たち（自分・家族・仲間・地域）ができること」
 - － 「理想のまち」に近づけるために、自分たちができることのアイディアをポストイットに記入し対話します。
 - ② 「理想のまち」に近づけるために「行政に支援してほしいこと」
 - － 「理想のまち」に近づけるために、行政にしてほしいことのアイディアをポストイットに記入し対話します。
 - ③ 意見のグループ化
 - － 内容を分類してキーワードを抽出します。
 5. 発表（11：40～）
 - ・本日の成果を各テーブルの代表者が発表します。
 6. 閉会
- 参加人数： 19人

6. 第3回ワークショップ実施状況

ワークショップの説明



ふりかえり



参加者の皆様



ワーク①「理想のまち」に近づくために「自分たち（自分・家族・仲間・地域）ができること」



ワーク②「理想のまち」に近づくために「行政に支援してほしいこと」



■ワーク 「理想のまち」に近づくために「自分たち（自分・家族・仲間・地域）ができること」 では「理想のまち」に近づくために自分たちができることについて、ワーク② 「理想のまち」に近づくために「行政に支援してほしいこと」 では、参加者が「理想のまち」に近づくために行政に支援してほしいことを話題にして会話を繰り広げ、積極的な意見交換がなされた。その内容をポストイットに分類し、キーワードを抽出した。

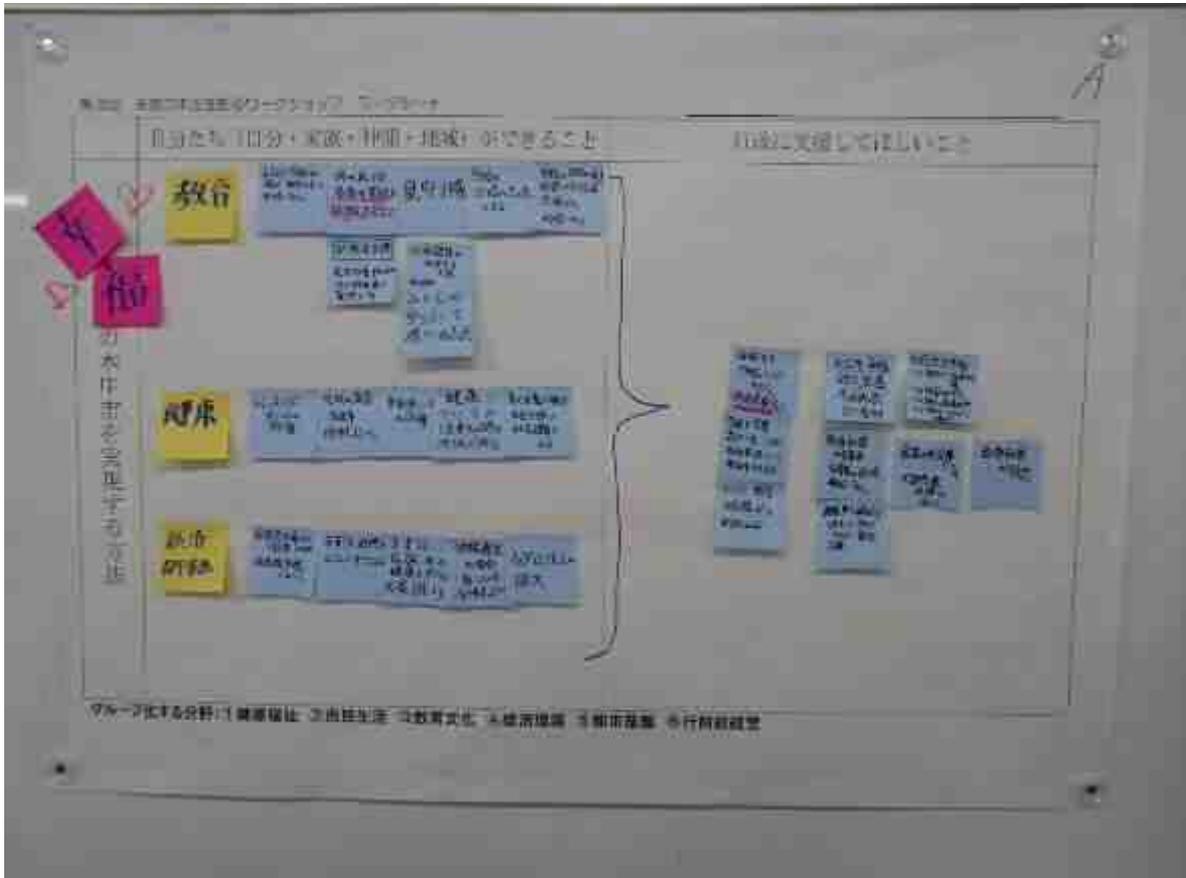
発表の様子



■発表では、各テーブルで話し合われた内容をまとめ、キーワード化し、代表者が発表する形式をとった。各テーブルでの意見とキーワードは「第3回ワークショップでの対話内容」に記載。

～第3回ワークショップでの対話内容～

■ Aグループにおける意見まとめ



「理想のまち」に近づくために「自分たち（自分・家族・仲間・地域）ができること」

①健康福祉

- ・ トレッキングイベントの開催
- ・ 地域の散策 自転車（東小平ネットワーク）
- ・ 自転車レースの開催
- ・ 健康についての活動の場を地域で作る
- ・ 安心な食べ物を本庄で作り、みんなが健康になる

③教育文化

- ・ 大人が学習する場が、地域にない・・・学校を地域の拠点とする
- ・ 何があっても各自の責任と認識を持つ
- ・ 利用する時 先生の責任ではなく利用者の責任です
- ・ 見守り隊・・・放課後のみまもりをする、子供が“安心”して遊べるため
- ・ 教育の向上 資格のある人が学校での補習させる

④経済環境⑤都市基盤

- ・国民総生産（経済）GNP から国民総幸福（GNH）
- ・まずは近所のコミュニケーション
- ・まずは家族内の健康に対する言葉掛け
- ・体験農業の実施（東小平ネットワーク）
- ・NPO 法人の拡大

「理想のまち」に近づけるために「行政に支援してほしいこと」

①健康福祉③教育文化④経済環境⑤都市基盤を総じて

- ・学校施設を開放する特区としてもらう。（利用者責任）
- ・学校を学童、老人のホールとする、NPO 医療施設として施設利用する
- ・グラウンド、教室、体育館等を開放
- ・本庄市幸福独立宣言・学校開放・人口増やす
- ・①国民総幸福（1）自分が活動する場（2）仲間を作る（3）自分の居場所（4）子供が
つどえる場所
- ・数値目標の設定
 - 幸福度合い、医療費の削減、廃校「0」健康寿命をどれだけ伸ばせるか
 - 農業の活性化 不耕作比率の減少

■Bグループにおける意見まとめ



「理想のまち」に近づけるために「自分たち（自分・家族・仲間・地域）ができること」

①健康福祉

- ・スポーツに参加
- ・高齢者へのあいさつ
- ・グランドゴルフ等の参加をうながす
- ・病院のお手伝い、地域で助け合い
- ・自己管理運動
- ・スポーツ教室をさらに多くする
- ・施設へのセラピー訪問

②市民生活

- ・地元での買い物
- ・景観への配慮
- ・となり組 良い近所付き合い 助け合いの気持
- ・本庄に豊富な自然資源（光、風、水、バイオマス）の活用（つかわないうてはない、もったいない）

- ・エネルギーの自産自消の意識高揚（環境意識）
- ・ゴミ削減
- ・ゴミの分別
- ・助け合いの精神を多くもつ

③教育文化

- ・意識の高い方達の仲間作り
- ・英才教育
- ・子供教育の活性化
- ・音楽教育の見直し
- ・小中学校の空き教室の活用 三世代の遊び場づくり
- ・自分の家の周囲 100m の道の清掃、植木草の伐採
- ・小学生からの特化したスポーツ教育
- ・子どもの能力に応じた教育格差の是認
- ・並行して、教育の底上げ
- ・英才教育（教育特区）
- ・英才特別教室（小中学高校各学年の各学級で TOP3 を集めて特別学級編成し、小学高学年で中学過程を、中学で高校過程、高校で大学教養課程を先行教育、分野は理系、文系、体育系）
- ・各種オリンピック（数学オリンピック、スポーツ五輪）出場で上位を目指す
- ・新しい音楽（口笛音楽）と口笛セラピーの可能性
- ・シルバー人材活用（教育貢献）

④経済観光

- ・水素エネルギーファンドを銀行と作る
- ・市民水素ファンド、市民出資と埼玉りそな共営で立ち上げ（なるべく高利回り目標 1%以上）
- ・本庄に豊富な自然資源（光、水、風、バイオマス）の活用→使わない手はない、もったいない
- ・究極のエコエネルギー水素、水素発電所建設の意識高揚
- ・就学、就職での流出防止
- ・環境にやさしい生活
- ・空き家の活用
- ・リサイクル意識の上昇
- ・シルバー人材活用
- ・環境意識の高揚
- ・太陽光発電導入（補助金あり）屋根貸し
- ・景観と環境のマッチング（新しい景観環境の創生）

- ・水素エネルギーファンド（埼玉りそな、武蔵野銀行と連携）

⑤都市基盤

- ・公園で交流
- ・市民運動
- ・ソフト面から高齢者にやさしい街

⑥行財政経営

- ・この地域の事をよく学ぶ知る
- ・個人個人が外でPR話しを出す

「理想のまち」に近づけるために「行政に支援してほしいこと」

各分野に共通

- ・本庄市の強みは？ 1 観光 2 スポーツ 3 教育 →これからできることは教育

①健康福祉

- ・市民参加型スポーツ大会
- ・ウォーキング大会開催
- ・スポーツ広場、ふれあいの場つくって欲しい
- ・活力ある街
- ・高齢化社会への対応→支援

②市民生活

- ・スポーツ特化地区
- ・高齢者の交流機会の創出
- ・中学の部活で剣道部等
- ・高校と中学の連携 相互連携 一貫教育
- ・少子化から学校跡地の活用
- ・スポーツ全国大会を毎年誘致

③教育文化

- ・教育特区の申請要望
- ・各種オリンピック誘致・参加（数学、物理、スポーツ五輪）
- ・統一模試実施 ・本庄市模試 ・埼玉県模試 ・全国模試 順位の公表

④経済環境

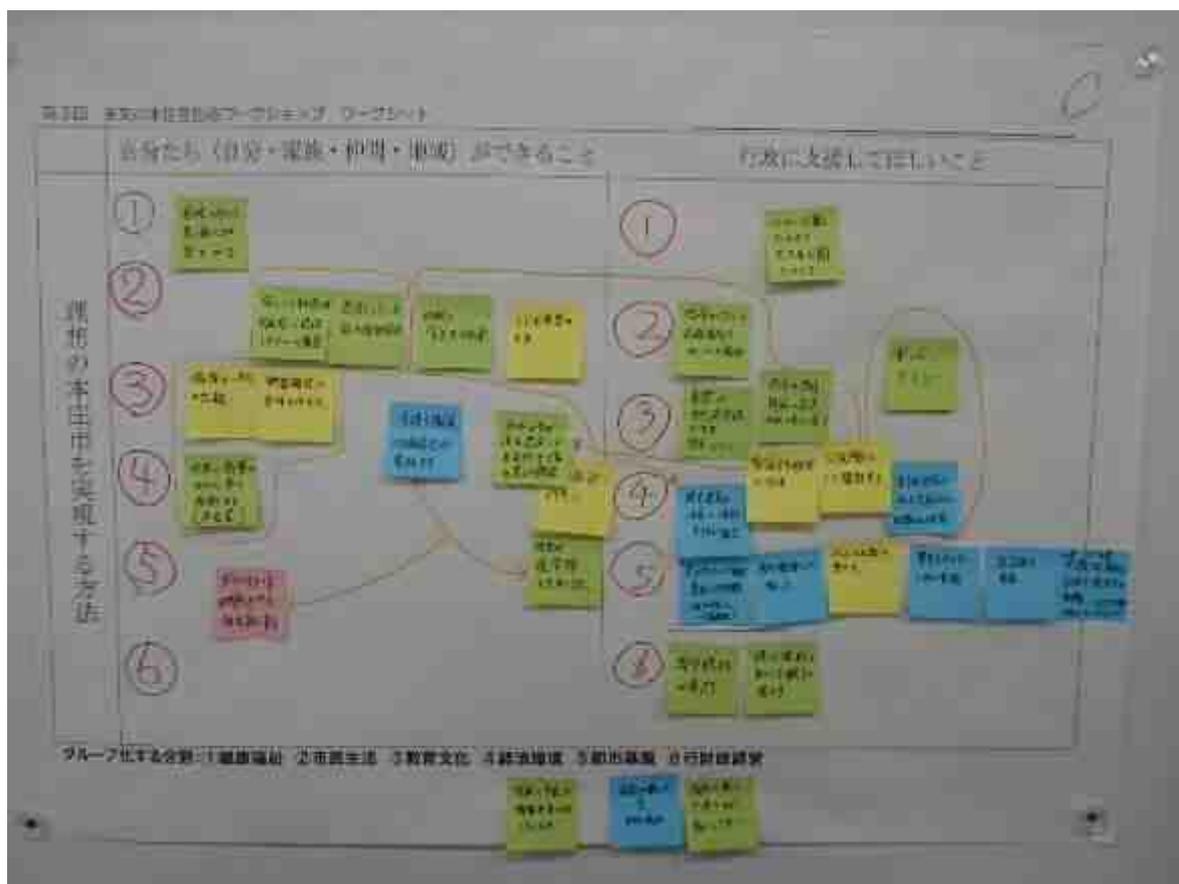
- ・エネルギー特区要望
- ・市民水素ファンド 市民出資と埼玉りそな共管でファンド立ち上げ（利回り）

- ・水素の街 本庄の町興し
- ・公共施設の活用（シルクドームの屋根等） 太陽光、川のせきに水力発電、利根川地域に風力発電機設置
- ・自然資源（光・水・風・バイオマス）から、水素製造→水素発電所建設→水素街興し
- ・市民ファンドをベースに、行政の補助金調達をお願いしたい
- ・県、国への太陽光、風力、水力発電補助金申請
- ・県、国への水素製造補助金申請
- ・県、国への水素パイプライン・インフラ補助金申請
- ・県、国への水素発電所補助金申請
- ・県、国への送電線設置補助金申請
- ・市所有土地、施設を活用、等

⑥行財政経営

- ・本庄駅から本庄早稻田駅のライフラインをもっと良く
- ・本庄駅に駅ビルを誘致
- ・物流をキーワードに民間活用
- ・北関東から南下したいニーズの産業誘致

■Cグループにおける意見まとめ



「理想のまち」に近づけるために「自分たち（自分・家族・仲間・地域）ができること」

①健康福祉

- ・病院の近くに買い物できる店をつくる

②市民生活

- ・安心して利用できる宅配店の認証システムの構築
- ・宅配している店の情報発信
- ・地域の食文化の伝承
- ・こども食堂の充実

③教育文化

- ・塙保己一先生の広報
- ・群書類従の意味を伝える
- ・世界に影響を与えた本を表彰する（本庄賞）

④経済環境

- ・市外の方が通る道沿いに直売所や土産を買える施設（IC周辺、17号に）

⑥行財政経営

- ・ボランティアを地域の中で自主的にする
- ・学校の清掃に地域住民が参加する
- ・住民が道普請しやすくする。

各分野に共通

- ・行政と市民が情報共有できるようにする

「理想のまち」に近づけるために「行政に支援してほしいこと」

①健康福祉

- ・小さい公園ではなく大きな公園を作る

②市民生活

- ・給食センターの高齢者向けサービス開始
- ・乗り合いタクシー
- ・高齢化社会に合った交通システム 近隣の利用

③教育文化

- ・自然に世代間交流できる空間づくり
- ・学校の使用用途の拡大（地域の集まり等）
- ・家庭科教室の活用
- ・公民館として開放する

④経済環境

- ・歴史遺産の活用→本庄の見所⇔観光

⑤都市基盤

- ・児玉町に人が多数集まれる料理屋さんを残して→補助金！
- ・街の電気屋さんを残して
- ・バスの本数を増やす
- ・費用をかけない小路の整備
- ・通学路の整備
- ・小平、さざえ堂、間瀬湖周辺の道路や遊歩道の整備、本庄でもっともアピールできる場所

⑥行財政経営

- ・都市機能の集約
- ・課を横断して動ける職員を増やす

各分野に共通

- ・情報公開⇔相互援助
- ・情報公開、内容を分かり易くしてほしい

■D グループにおける意見まとめ



「理想のまち」に近づくために「自分たち（自分・家族・仲間・地域）ができること」

①健康福祉②市民生活③教育文化に共通

- ・異世代間交流をつづける

②市民生活

- ・まずは自分のまわりに目を向ける
- ・近所の人との関わりをもつ
- ・イベントなどに積極的に参加する
- ・若者向けの街づくりワークショップを行う
- ・市の一員である自覚を持つ
- ・積極的に民間活力になる
- ・自分のマンパワーを上げる

③教育文化

- ・自治会に参加する
- ・高齢者を敬う心を持つ

- ・核家族をなくす

④経済環境

- ・地元で買い物することを心がける
- ・地産地消に貢献する

「理想のまち」に近づけるために「行政に支援してほしいこと」

分野に共通

- ・話せる場づくり、このワークショップのような仲間づくりの仕掛け

②市民生活

- ・広報を頑張ってほしい
- ・バスの充実
- ・イベントを増やしてほしい
- ・こども食堂の支援
- ・はにぼんプラザ夜間駐車場の開放
- ・子育て支援センターが充実していた
- ・掲示板
- ・車が運転できなくなっても、生活できるまちづくり。移動販売など
- ・リクエストでドア To ドアを希望

③教育文化

- ・子育て支援、学童保育に高齢者が関わるシステムづくり
- ・シルバー人材（65歳↑）の活動内容拡大とPR

④経済環境

- ・ショッピングセンターの建設
- ・商個人事業者等への様々な支援

⑤都市基盤

- ・街灯をたくさん作る
- ・外からの人、住人を増やす。市として多くPR
- ・若者がUターンしてくる街づくり

②市民生活⑤都市基盤に共通

- ・若い世代、新しい住民に情報をPRしてほしい

※書き起しは原文を基本とし、漢字の訂正等を行った